ゆう薬局

患者さんの「食べる悩み」を解消する薬剤師と管理栄養士の連携

南丹市にあるゆう薬局の女性スタッフHさんは新卒入社2年目、一般事務をしながら管理栄養士として、患者さんの食事や栄養の相談に応じています。

先日、こんなことがありました。60代の吉田さん(仮)が、ぷりぷりした表情で駆け込んできて、薬剤師Iさんに愚痴をこぼし始めたのです。「今、病院で医師に、あれを食べたらあかん、これもあかんって言われてな。もう何も食べられへん!」。

吉田さんは腎臓を患っているため、カリウムのコントロールが必要です。ただ、カリウムは葉物野菜や海藻、バナナなどの果物、芋、豆、魚、肉類などほとんどの食品に含まれるので、厳密に言うと「あれもこれもダメ」に。ベテラン薬剤師Iさんは、少し落ち着きを取り戻した吉田さんに、「栄養のプロに聞いてみましょう」と、管理栄養士のHさんを呼んできました。

Hさんは吉田さんの訴えやカリウム値を把握し、「大丈夫ですよ。カリウムは熱や水に弱いので、ホウレン草も茹でると食べられます」とアドバイス。選び方や摂取目安を知り、目を輝かせ「工夫次第で食べられるとわかって、ホッとした。教えてくれてありがとう」と笑顔で帰られました。

Hさんは話します。「食は生活の基本。患者さんのいつもの食事をできるだけ尊重したい。まずは思いを受けとめ、無理のない提案を心がけます」。食には誤解も多い。毎朝のパンのカロリーを気にされる人には、「野菜のサンドイッチならカロリーを抑えられ、卵やチキンならたんぱく質も摂れます」と説明すると、驚かれるそうです。

南丹市のゆう薬局は、地域の生活支援を担うコンビニとコラボした初めての店舗。隣接するコミュニケーションスペースでは、医療、看護、介護をつなぐ取り組みのひとつとして、定期的に「まちカフェ」を開催、イベントをはじめ、薬や食の健康相談にものっています。信頼関係を結び、住み慣れた地域での暮らしと健康を支える。ゆう薬局の薬剤師は、管理栄養士ともタッグを組み、地域づくりを目指しているのです。

ゆう薬局 ハンケイ500m物語 vol. 07

なんでも相談できる「ゆう薬局」には、お客さまとの物語があります。

豆知識

保険薬局の管理栄養士

栄養相談や健康イベントを実施。七条ゆう薬局では、体組成測定結果を基にマンツーマンでの食事アドバイスが受けられる、『すこやか栄養倶楽部』を実施しています。絶賛会員募集中!

ゆう薬局グループ本部・宇野薬局

☎075-771-1690(本部)
京都市左京区浄土寺下馬場町106
もよりバス停は「錦林車庫前」

KBSラジオ
“サウンド版ハンケイ500m”
の番組内にて、ゆう薬局の
ラジオドラマを放送中!
毎週土曜17時〜18時!